

メモ

防火・防災ハンドブック

防火・風水害・地震の対策



「災害は忘れた頃に
やってくる」
「火災」「風水害」「地震」に
ついて、日ごろからの備え、
いざという時にどうしたら
よいのかをまとめました。

横浜市安全管理局

◆防火の対策

火災の原因の上位として・・・

★放火 ★たばこ ★食用油過熱出火 ★火遊びとなっています。

では、いざと言うときにどんな行動をすれば良いかを考えていきましょう。

火災発生!! その時どうする?

その1 <知らせる>

- 大声で隣近所に火災の発生を知らせる。「**火事だあ～火事だあ～**」

- 119番通報をする。

- ① 火事です。〇〇が燃えています。
- ② 住所は〇〇区〇〇町〇丁目〇番地です。
- ③ 名前は〇〇〇〇です。
- ④ 目標は〇〇〇〇です。
- ⑤ 電話番号は〇〇〇-〇〇〇〇です。

※ 携帯電話からの119番通報は、場所を確認し、**必ず市町村名**から知らせて下さい。



その2 <初期消火>

- 無理なく、初期消火を実施しよう。
火が天井に燃え広がらないうちに、素早く消火器を使用して消火しよう。

「エアゾール式簡易消火具」は、小型で軽量です。通常の消火器より取り扱いやすく、高齢者の方などが使用するのに非常に有効です。横浜市安全管理局では、基準に適合している「エアゾール式簡易消火具」の設置普及を推奨しています。

★「エアゾール式簡易消火具」(上部のボタンを押すだけ)



「消火器」

(①、②、③の要領で・・・)



↑①安全ピンを上引き抜く↑



↑②ホースを火元に向ける

↑③レバーを握る

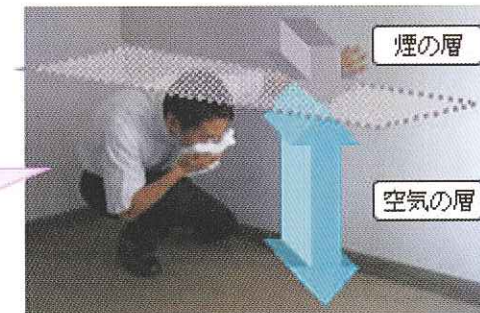


↑体重をかけてもOK

その3 <避難>

- 避難する。
 - ・ 火が天井に回る前に避難する。
 - ・ 空気を絶つために、燃えている部屋の窓やドアを閉められる場合は閉める。
 - ・ 逃げるときは、濡れたタオルなどで口を覆い、姿勢を低くして避難する。
 - ・ 外出先では非常口などを確認し、いざというときは従業員の指示に従いましょう。

姿勢を低くして、煙の層を避けます。

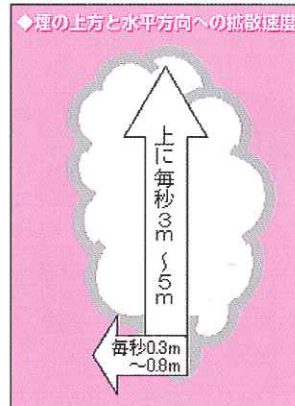


● 煙の恐ろしさ

- ・多くの場合、煙の中には有毒物質が含まれています。
 その中でも最も発生量が多く、どんなものが燃えても共通して発生するのが一酸化炭素（CO）です。
 火災では、煙を吸って意識不明になり、炎に襲われる人が多いのです。
 避難するときは、煙を吸わないことが重要です。

一酸化炭素中毒の症状

空気中の 一酸化炭素濃度 (%)	症 状
0.02	2～3時間で軽い頭痛がする。
0.04	1～2時間で頭痛、吐き気がする
0.08	45分でめまい、けいれんを起こす
0.16	20分で頭痛、めまい、2時間で致死
0.32	5～10分で頭痛、30分で致死
0.64	5～15分で致死
1.28	1～3分で致死



- ・煙の上昇速度は、毎秒3m～5mにもなります。これは階段などで人が上がる速さ（約毎秒0.5m）をはるかに上回るので注意しなければなりません。

● 誘導灯

- ・避難口、通路、廊下、階段、その他避難施設等へ誘導するための標識です。
 火災による停電でも消灯することはありません。大規模建物や地下街などは60分以上点灯します。店員や職員の指示に従い、冷静に行動しましょう。



設置しましたか？住宅用火災警報器！

一大切な「命」「財産」を守りますー

平成23年6月1日になるまでに、みなさまの住宅にも住宅用火災警報器の設置が義務化となりました。



住宅用火災警報器ってどんなもの？



- 火災により発生する煙や熱を自動的に感知し、音などにより火災の発生を早期に知らせる機器です。ネジやフックで壁などにご自分で簡単に設置できます。
- 法令により規格が定められており、規格適合製品には、「NSマーク」が表示されています。



どこに設置するの？

- すべての住宅の寝室・台所・階段（寝室が2階以上の場合）に設置する必要があります。
 《マンションやアパートなどの共同住宅は、個人の住宅内のみが対象となります》



（設置の一例）



販売はどこ？いくら？

- ホームセンター、家電量販店、ガス機器店、電器店、防災用品店、メーカーの代理店などで、4,000円台から販売されています。（「NSマーク」の付いた製品をご購入ください）



悪質な訪問販売にご注意を！

- 安全管理局では、自治会・町内会等を単位とした共同購入を推奨しています。共同購入は、安価に安全に設置することができ、また、地域安全が向上するなど多くのメリットがあります。

◆防火の対策 Part2

ストーブの取り扱いに注意

- ・燃えやすい物を近づけない
- ・洗濯物を干さない
- ・火の点いたまま給油などしない

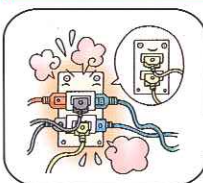
神棚や仏壇等の安全対策

- ・ロウソク、線香をつけたまま離れない
- ・線香立て等の下には燃えない素材のものを！



コンセントなどの取り扱いに注意

- ・たこ足配線をしない
- ・使用後はコンセントを抜いておく
- ・湿気やほこりで出火することがあるので注意



火遊びをさせない環境を

- ・子供の手の届くところにマッチやライターを置かない



風呂の空焚きに注意

- ・点火のときは、水が入っているか確認
- ・消火のために水は、いっぱいしておく



■住宅用火災警報器を取り付ける

- ・各部屋（寝室）、廊下、階段、台所に適切な機種を設置する



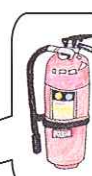
寝たばこはやめる



防災処理した製品を使う

- ・寝具、カーテン、じゅうたん等

見えるところに消火器・エアゾール式簡易消火具を置く



放火を防止する

- ・家の周りに燃えやすい物を置かない
- ・夜は外灯をつける



揚げ物をしているときは、その場から離れない

- ・離れるときは、火を消してから！
- ・コンロを使用しないときは元栓を閉める



みだりにたき火をしない



◆風水害の対策

台風や豪雨に備えて、日ごろから家の周囲等を点検して、必要な箇所の修理・補強をして、雨や風に対する万全の対策を講じておきましょう！

普段からの準備は？

- 日ごろから家の修繕等はしておこう。
 - ・ 雨どいや側溝は水はけを良くしておこう。
 - ・ 瓦のずれや割れ、トタンのめくれなどは修繕をしておこう。
 - ・ 家のまわりは整理整頓、ブロック塀等の修繕・補強も忘れないで。
 - ・ 水路をつくって雨水ががけに浸透しないようにしよう。
 - ・ 停電に備えて、懐中電灯、ロウソク、携帯ラジオ等を用意しよう。



いざというときには！

- テレビ・ラジオで気象状況の把握をしよう。
 - ・ 窓ガラス等は、外側から板でふさぐなど早めに補強しましょう。
 - ・ ベランダの物干し竿や植木鉢等を片づけましょう。
 - ・ 避難袋を用意し、危険を感じたら早めに避難しましょう。
- 都市河川の増水は早い判断と行動が必要です。特に地下街・地下室等の水の流入に注意して下さい。
- 台風や豪雨が去った後の安全確認をしましょう。
 - ・ 瓦、アンテナ、プロパンボンベ等は大丈夫でしたか？
 - ・ 危険物の漏れなどは大丈夫でしたか？ などなど…。



◆地震の対策

地震が起きたときは、自分の身は自分で守ることが基本です。普段からどのように行動をしたら良いのかを考えておきましょう。

地震発生!! その時どうする？

その1 <その場にあった身の安全>

- 屋内の場合
 - ・ 落下物に注意し、座布団やかばんなど身近なもので頭を覆いましょう。
 - ・ タンスやショーケースなど倒れやすいものから離れましょう。
 - ・ 丈夫なテーブルなどの下にもぐり、テーブルの脚をしっかりと掴みましょう。
 - ・ ガラスの破片でけがをする恐れがあるので、靴などを履いて避難しましょう。
 - ・ エレベーターの中では、全部の階のボタンを押して、最初に停止した階で降り、階段を使用して避難しましょう。
 - ・ 人が集まる場所では、慌てず出口に殺到せず、冷静に係員の指示に従って下さい。

最初の揺れは、1～2分程度です。冷静に安全に身を守りましょう！



してはいけない3動作

- ① 揺れと同時に外へ飛び出す
- ② 上階から下階へ急に降りる
- ③ 裸足で歩き回る



● 屋外の場合

- ・ 持っている物で頭を覆い、近くの公園などに避難しましょう。
- ・ ブロック塀や看板、自動販売機等には近づかないようにしましょう。
- ・ 車を運転中は、急ブレーキに注意して、道路の左側に停車し、カーラジオで情報を確認しましょう。車を離れるときは、キーをつけたまま窓を閉め、ドアロックはしないで車検証などを携帯し避難しましょう。
- ・ 海岸にいる場合は、直ちに高台か、遠くへ離れて下さい。がけ付近にいる場合も同様に避難しましょう。

その2 <すばやく火の始末>

小さな火のうちに消しましょう。

燃え広がるまで
若干時間があり
ます！



● 火を消す機会は3度！

- ① 揺れを感じたとき。
- ② 揺れがおさまったとき。
- ③ 出火した直後。

※大きな揺れの場合は、まず身の安全を図ることを優先して下さい。

その3 <となり近所の助け合い>

- 消防車、救急車はすぐに来られない場合があります。
となり近所の協力は、大きな力となります。



・自分の安全を確保した人は、
積極的にとなり近所の方の
安否を確認しましょう。



その4 <避難する>

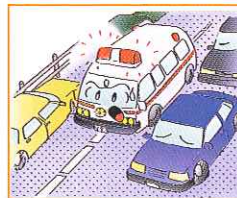
● 避難は徒歩で

- ・持ち物は、必要最小限にしましょう。日ごろから準備・点検をしましょう。
- ・脱出口を確保しましょう。
- ・家を出るときに確認しましょう！

ガスの元栓を閉め、電気ブレーカーはOFF！

窓やドアを閉め、戸締まりも忘れずに！

- ・車での避難は、交通混乱の原因となり、緊急車両通行の妨げになるのでやめましょう。
- ・となり近所に声を掛け合い、子どもや高齢者、障害のある方の手助けをしましょう。



- ・狭い路地などは使用せず、平坦な広い道を使用しましょう。
- ・正確な情報を入手しましょう。
デマに惑わされることなく、ラジオやテレビで正確な情報を。
- ・職場、学校に帰宅グッズを備えよう。



その5 <避難場所>

● 家にとどまる

- ・自宅建物が火災や倒壊の危険がないときは、あえて避難の必要はありません。
(状況に応じてください)

● 避難する場合



ま ず

近くの安全な場所

指定された小中学校に限らず、まず、
近くの公園、広場など、安全な場所
に避難

必要に応じて

震災時避難場所

(地域防災拠点)
市立の小中学校
(455箇所)

※(平成20年4月1日現在)



大火災等の危険
があると



広域避難場所

地震による大火災が多発し、延焼拡大した場合、熱や煙から生命・身体を守るため一時的に避難

家庭内で備蓄をしよう！

- 様々な危機に備えて、食料や飲料水を家庭内で3日分備蓄するとともに非常持ち出し品リストを作成するなどして、いざというとき、すぐに使えるように用意しておきましょう。

・飲料水

保存飲料は最低1人1日3リットル

・生活用水と消火用水を用意

普段から浴槽、やかんやペットボトルなどに汲みおきしておくと、トイレなどいざというときに役立ちます。

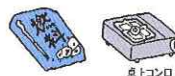
・食料

米、もちなど主食を用意しておきましょう。

副食として缶詰、レトルト食品などを用意し、お年寄りや病人、乳幼児のための食品も用意しましょう。

・その他

簡易トイレ、卓上コンロ（燃料）、包装用ラップ、予備の電池など。



（実際に背負ってみて、しばらく歩ける重さにしておきましょう！）



（常に家には水、ロウソク、マッチ、携帯コンロ、ガスボンベ、インスタント食品などを備えておくことも必要）

わが家をチェック！

● 家具の転倒防止

- ・家具は、壁に密着させて固定しよう。
- ・転倒防止器具は、大きさにあったしっかりしたものを取り付けよう。
- ・積み重ね家具は、つなぎ目をしっかり留めておこう。
- ・寝室、こどもや高齢者がいる場所は、できるだけ家具を置かないようにしよう。

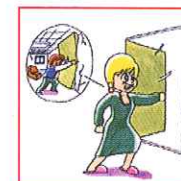
● 落下物の整理

- ・重い物は高いところに置かない。
- ・照明器具、エアコン、額縁などは落下防止策をする。
- ・観音開き戸に留め金をつける。
- ・柵には、物が飛び出さないように滑り止めなどをつける。
- ・食器棚などのガラス戸には飛散防止フィルムを貼る。



● 安全、迅速な避難

- ・廊下や玄関は、物を置かず、広く開けておこう。



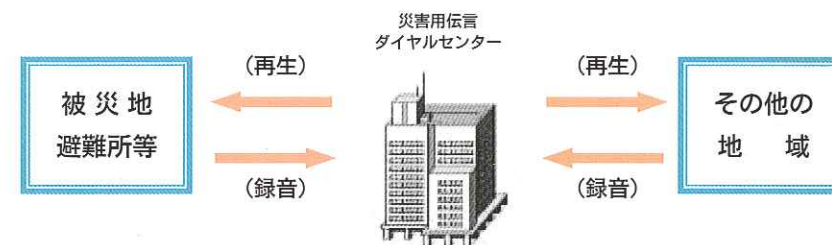
災害用伝言ダイヤル「171」

● 災害用伝言ダイヤルとは？

大規模災害発生時に、被災地の方が録音した安否情報を他の地域の方が、聞くことのできる「声の伝言板」です。

また、被災地の方へのメッセージの送信も可能です。

災害用伝言ダイヤルの提供を開始する場合は、テレビ・ラジオ・インターネットなどでお知らせします。（事前の契約は不要）



※一部事業者ではご利用できない場合があります。また、利用料金等が異なる場合がありますので、ご不明な点は加入電話会社へお問い合わせ下さい。

知っていて損はなし！

緊急地震速報



緊急地震速報ってなに？

- 緊急地震速報は地震の発生及びその規模を素早く知り、地震による強い揺れが始まる数秒～数十秒前に、来ることをお知らせすることを目指す新しい情報です。ただし、震源に近い地域では、緊急地震速報が強い揺れに間に合わないことがあります。

全国に配置した地震計（気象庁：約200箇所、独立行政法人防災科学技術研究所：約800箇所）を使って、地震の位置、大きさを瞬時に推定、予想される揺れの大きさ（震度）を推定。

IT技術を活用し、素早くお知らせ
「緊急地震速報」

どう使うの？

- 緊急地震速報を有効に活用するためには、緊急地震速報を見聞きした際に、適切に行動できるように訓練しておく必要があります。

これまでの地震情報と同様にテレビなどを視聴していた際に、スーパーとして番組に重ねて放送されます。



（強い揺れが来ます・揺れの予告）



（危険回避）

生活安全相談室

- 急病の時に医者さんや病院を紹介します。

連絡先 → 横浜市救急医療情報センター
TEL 201-1199（24時間受付・年中無休）
FAX 212-3808



- 子どもの急な病気
子どもの急な病気などで困りのときに適切な対応方法等を看護師がアドバイスします。

連絡先 → 横浜市小児救急電話相談
TEL 201-1174（いいナース）
・平日 18時から24時
・土曜 13時から24時
・日曜、祝日、年末年始 9時から24時
（12/29～1/3）

- 消火器の廃棄方法について
消火器は、圧力ボンベや特殊な薬剤を使用していますので、家庭ゴミや粗大ゴミのように捨てることは出来ません。腐食・変形等がある消火器は大変危険です。失効消火器についても使用しないで下さい。（お持ちの消火器の確認を）廃棄する場合は、消火器を購入した販売店等に廃棄を依頼しましょう。（消防署では、消火器の廃棄も販売も行っておりません）



- 横浜市コールセンター（便利な暮らしの情報ガイド）【民間委託】
TEL 664-2525（8時から21時：年中無休）
FAX 664-2828
市役所や区役所の制度や各種手続き、イベント、施設等に関することや市政情報や生活情報などのお問い合わせについて、専門のセンターでご案内するサービス窓口です。

平成20年3月発行
横浜市安全管理局予防部予防課
〒240-0001 横浜市保土ヶ谷区川辺町2-9
Tel 045-334-6617 FAX 045-334-6610
横浜市広報印刷物登録190681号
種別・分類：B-NB060